

寺と神社はセツト

若宮八幡神社

大内捷五さんに聞く



二〇〇八年二月二十四日、「正恵塾」で講演する大内さん

正恵 先日奈良に行ってきたんです。いやあ、行ってみるものですね。東大寺や興福寺と春日大社がセツトになっているのが、歩くと分かる。寺と神社が一セツトで国の安寧を願ったんですね。日本という国を治める

最初の組織(大和朝廷)がそうだったから、国中の村々に寺と神社が一セツトであるのはあたりまえですね。玄松院もすぐとなりが熊野神社です。通称十二神さま。熊野神社をなぜ十二神さまというのかは調べて

いないのですが、かつて十二神将を祀ったのであれば、十二神将というのは薬師如来の従者ですから、どこかにお薬師さまを祀っていないければならない。住職に聞いたら、上戸から中田に行く途中(十二神さまからみると西側に薬師堂があった)というじゃないですか。
でね、町区の荒川末男さん(故人)が戦時中、中国天台宗の本山がある玉泉寺(湖北首)に駐屯していたんだそうですが「そこは寺がぼつんとあるのではなく町区ぐらいの広さの区画全部が寺なんだおねや」というひと言がすごく頭のなかに残っているんです。で、思った。昔の中坪の人たちには村の要所要所に神社仏閣を祀って村を守るという長期総合計画があったのではないかって。これは神社は大切だぞと(笑)。
でも神社のことって分からない。
大内 そこで、若宮に来たよ。
正恵 そうなんです。神社と寺が一緒になって「しきたり」などを再確認していく必要があるのではないかと。

大内 「しきたり」って「してきたこと」だから先人の智慧が凝縮されているんだよね。
人間は本来健やかなもの
大内 皇室や全国の神社では六月と

十二月の晦日に「大祓え」という祭りをする。そのときに「大祓詞(おおはらえのことば)」を神さまに捧げるんです。
高天原に神留り座す 皇親神漏岐(たかまはらのかむりま すめのみことのかみなま) 神漏美の命(かみのみこと)を以ちて八百萬神等を 神集へに集へ賜ひ 神議りに議り賜いて 我が皇御孫命(みまのひらみこと)を 豊葦原水穂國(よさきはらのみづほのくに)を 安國と平けく知ろし食せと……で始まる。「大祓え」の「大は「公」という意味。だからこれは国を清める詞なのさ。
正恵 お寺でも、朝のお勤めであげのお経の回向で国土安穩と万邦和衆を祈ります。まず国の安寧を願う。
大内 同じですよ。国が安らかでなければ個人のしあわせはない。これはまちがっていないと思います。そして八百万の神を「集へに集へ」議りに議り」でしょ。民主主義なんて言葉がなかった昔から、日本は民主主義をめぐっていたことがわかる。みんな、安らかで平和な国にしたいと、高天原の神さまがおっしゃったわけです。
で、豊葦原水穂國(よさきはらのみづほのくに)でしょ。自然が豊かな稲作の国という意味です。
正恵 国土の特色をちゃんと押さえてある。
大内 そのあとはどうなっているかというところ。人間は罪を犯す、その罪を祓う祝詞を唱えなさいと。

この場合の罪は、悪いことというより、人間本来のあるべきようがつつみかくされてしまうことなんです。穢れは汚いことではなく、気が枯れることなんです。
正恵 「二十八億年も生きながらえてきた人間は本来、神々しく健やかな存在なのです」ー春日大社の宮司さんがおっしゃってました。
大内 そうだね。
祓った罪・穢れはどうなるからか、後半に書かれている。瀬織津比賣と

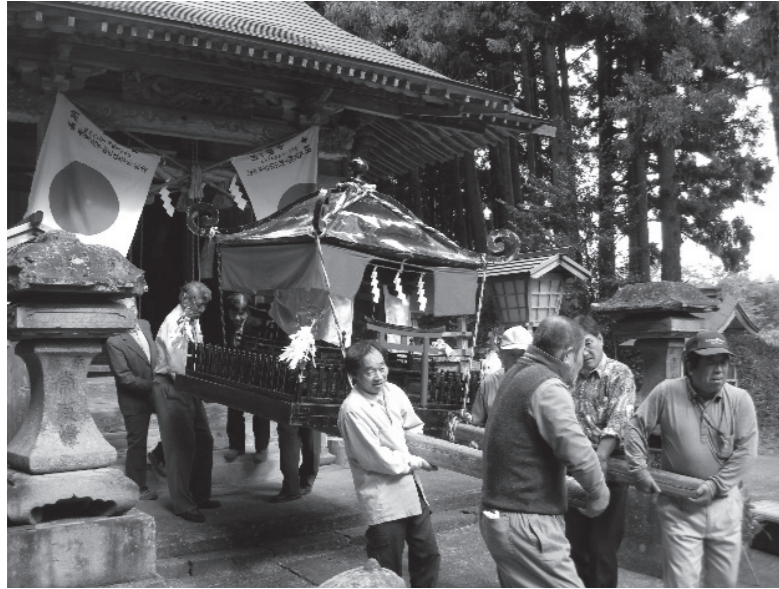
いう川の神が海に運んでくださる。それを速開津姫という海の神がガブガブと飲み込んで海の底に沈めてくださる。それを氣吹戸主という神さまが国底にフーツと吹きやってくたさる。最後は速須須良姫がいつこともなく放り散らしてくたさる。
祓われると「よみがえる」のさ。
正恵 すごい。しかも循環する要所要所に神さまがいる。理科で水の循環を教えるとき、そのことも、子どもに教えなさいや。

先人の思いが残っている
正恵 それぞれの神社に、昔は神主さんがいたんですか？
大内 別当さんという人がいた。萩埴にも成田にもね。ただ(なんでも同じだと思っけど)維持管理というのは、生活が成り立って初めてできるものだから。生活もできないような経済状態では維持管理なんてできないよね。だから神社には必ず専従がいれば良いか、ということも考えなければならぬ。
私は今、萩埴、中田、成田の神社を兼務している。で、昭和六十年から「月詣り」をしている。
正恵 各神社に行ってお祓いをしてくるわけですね。
大内 そう。「月詣り」の日を決めてずーっとやっていたら、氏子さんも

来るようになった。来ないところもあるけど(笑)。集まってくれば、草が伸びていけば草をとる、壊れているところがあれば直す。月々確実に行って行事をすることが地域の福利につながるっていくね。
お宮というのは昔から地域の問題を話し合う場だったんですよ。江戸時代、米騒動を先導した神主が北陸にいた。村の衆を鎮守に集めて決起場所とした。そこで祈願してから、行政に窮状を訴えた。
正恵 公会堂が神社のそばにあるのは正しいわけですね。
大内 《なぜ神社をここに祀りしたか》というご先祖さんの思いを、我々は常に想起させておく必要があるよね。神社というのは神社関係者が個人的な思いで建てたものではない。地域の人たちが地域の安心安全を願って建てたわけです。お宮には先人の思いが残っている。だから、神社参拝をしなさいと言っているんです。

で、誰かが亡くなったら神社では帰幽報告(きゆうほうこく)をしています。
子どもが生まれると、みなさん初宮参りに連れて行きますが、あれも本当は氏神さまに行くんです。どこでも良いわけではない。
正恵 「よろしくお願い致します」と「お世話になりました」の挨拶を

氏神さまにするのですね。
ところで、私もなにかと家々をまわることが多いのですが、神棚やお仏壇が綺麗な家は榮えていますよね。これはウソじゃない。
神棚にはなにをお供えすればいいのですか？
大内 米、塩、水。日供(にっく)が原則です。毎日供える。塩と水は《いのちの源》だよ。それが結実したものが米なんです。
塩と水というのは、海の神さまの祓えの道具。海は「禍事(まがこと)」「禍々(まがまが)しいこと」をおさめる場なんです。
正恵 道元禪師が書かれた修証義というお経にも「海の水を辞せざるは同事なり 是故に能く水聚りて海となるなり」という一節がでてきます。どの川から流れてくるどんな水でも海は同じように受け入れる。それらの水を飲んで大海となり、しかも海の徳を失わない、という意味です。海のような心を持ちなさいと。
大内 昔の人は、自分たちのいのちの源が海だということを知っていたんです。
正恵 その海にも許容量というものがあるし、海の神、自然の神さまを怒らすような汚しかたはしちゃだめですよ。しつべ返し怖い。
大内 もう、かなり怒っているだろうね。



熊野神社(貝堀)の秋の大祭。氏子さんが神輿を納めるところ。大内さんは貝堀も兼務しています。

ずーっとやっていたら、氏子さんも